

令和 7 年度 一般選抜前期日程 人間健康科学部看護学科 小論文
出題の意図と解答の傾向

第 1 問

【出題の意図】

看護学科のアドミッションポリシーとして「人に関心があり、他者と尊重し合う価値観を備えている」、「柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる」、「看護職者として社会に貢献する意思や具体的イメージを有している」を挙げている。左記の2つのアドミッションポリシーより、今回、「診療所で勤務している医師の経験から高齢者を取り巻く医療やケアに関する状況」を示した課題文を読み、人生の最終段階において本人が望む医療やケアを実現し、尊厳をもって人生をまっとうするために必要なことを考え、論述する設問とした。

我が国においては、高齢者の増加、疾病構造の変化、社会保障費の増大などを背景として、病院完結型医療から地域完結型医療にシフトしている。これに伴い、本人の意思に基づいて住み慣れた地域で自分らしい暮らしや生き方を人生の最期まで継続することが模索されている。そのために、早期からの健康づくりやアドバンス・ケア・プランニングへの取り組み、地域住民同士で助け合う関係の構築等が求められている現状を理解することも必要と考えた。

【解答の傾向】

設問 1

“課題”とは問題を解決するためにとる具体的な行動である。このため解答においては、治療方針や介護のサポートに関して、老いや病に抗おうとせず、お任せするという寡黙な高齢者に対し、これまでは家族や医療・介護の現場の意向で方向性を決めてきたという[問題]があること、「自分のことは自分で決めたい」と考える世代が主流となる時代を迎える[これからの状況]を踏まえ、医療や介護の現場では、地域社会から排除するのではなく、本人が望む人生と向き合い、共に検討する姿勢が必要という[方向性]の記載が求められる。

解答の傾向としては、課題文を引用しながら、必要なポイントに焦点をあてて記載することができているものが多かった。しかし、解答した受験生の一部には、抽象的な記述になっているものや、設問とかけ離れた文章表現により減点されたものが見受けられた。

設問 2

この設問では、住民の立場、もしくは医療職の立場から、①住み慣れた地域で暮らすことが重要だといわれるようになった背景、②住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことの意義、③これらを踏まえて、必要と考えることについて、具体例をまじえて記述することが求められる。

解答の多くは序論・本論・結論を意識して記述できていたが、相互の関連性が一部不明確なものが見られた。また、解答した受験生の一部には、文字数が 8 割に満たない、誤字脱字、不適切な文章表現により減点されたものが見受けられた。

内容に関しては、課題を概ね適切に捉え、「住み慣れた地域で自分らしく暮らすために必要なこと」として、健康づくりを含む介護予防、障害などで生活に支障を来しても多様なサービスを利用して生活を継続する、地域で暮らしたいという意向に基づいた人生プランを本人が早期から考え、家族に伝える等を挙げて解答することができていた。また、少数ではあったものの、地域包括ケアシステムの「互助」に着目し、近隣住民の様子を気にかけて声をかける、生活の継続に必要なことを支援する等に言及した解答も見受けられた。平素から社会の動向や施策、人々の生活に目を向け、考えることが求められる。

第2問

【出題の意図】

本問題は図表からの読み取り問題である。出題元のデータは内閣府が 2023 年 7 月に発表した『満足度・生活の質に関する調査報告書 2023 ～我が国の Well-being の動向～』である。これは日本における総合的な生活満足度や 13 分野別の満足度を把握するための調査である。設問では提示された情報から正確に情報を読み解く能力・理解力を問うている。そして与えられた課題から論理的で説得力のある文章を表現できるかを確認するための問題である。これは看護学科のアドミッションポリシーの中では「柔軟な発想で分析し、論理的思考に基づいて論述できる。」「看護や医療に関する専門知識や技術の修得に必要な意欲および基礎学力を備えている。」「人に関心があり、他者と尊重し合う価値観を備えている。」を測る問題である。受験生が調査報告書の内容を正確に理解し、重要な情報やその背後にある課題を分析できるかどうかを問う出題とした。

【解答の傾向】

設問 1 と設問 2

それぞれ図 1 と図 2 から読み取れる情報や内容を適切に理解し、簡潔に文章で説明できるかの解答を求めた。設問 1 に関しては正答率も高く、図の内容を理解していない受験生はほとんどいなかった。設問 2 については、図 1 と図 2 の関連性に気付いているかどうかのポイントであった。図 2 は 2022 年と 2023 年の調査結果の推移を表したものであり、図 1 ともリンクしている。設問 2 では図 1 と図 2 の関連性に気づかずに、要点をまとめて解答できない受験生が多かった。出典や図の説明を注意深く読むことで解答できる問題であった。

設問 3

この設問では、関連する 2 つの図から読み取れる情報を活用しながら生活満足度を上げるために必要な取り組みについて自分の考えを述べる問題である。図 1 からは 2019 年から 2023 年までの間で社会情勢を踏まえながら考えを述べ、図 2 からは分野別の満足度の推移を踏まえながら生活満足度を上げるためにどのような取り組みが必要と考えるかを述べると良い。図 2 の情報にのみ着目し、図 1 の情報を自分の考えとして表現できていない受験生もいた。

設問 3 の評価基準として、課題を理解して近年の状況や社会課題を記述しながら論理的な文章を展開していること、分野別満足度のうち 1 つ以上の具体例や根拠を挙げて適切かつ十分に論じている文章は高く評価した。文章構成を意識していない段落構成を用いたり、段落がない文章によって減点された受験生もいた。誤字脱字が多く、一部文章の文法や語彙が不正確で意味が伝わらない文章は減点要因となった。